

地域創生学群 地域創生学類 教育における三つの方針

学位授与方針 [学士 (地域創生学)]

■ 知識・理解

- 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】

(地域マネジメントコース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、政治、行政、経済、経営、会計、情報技術、法律などの専門知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

(地域福祉コース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、老人、障害者、児童といった現代社会における福祉の専門知識について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

(地域ボランティア養成コース)

- 地域に関する様々な専門知識に加え、スポーツ指導理論や障害者スポーツに関する理論等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解している。【専門分野の知識・理解】

■ 技能

(地域マネジメントコース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、情報技術を活用した統計処理の手法、財務的・会計的な分析能力といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

(地域福祉コース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、具体的な相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

(地域ボランティア養成コース)

- 地域活動を行っていく上で必要とされる、ボランティア実践の手法、スポーツ指導技術、障害者スポーツ指導技術といった技能を身につけている。【専門分野のスキル】

■ 思考・判断・表現

- 地域に関する理論と現場理解を基盤に、多面的な視野から状況を判断し、地域が抱える問題の本質を見抜くことができる。また、論理的、創造的にものごとを考え、問題解決策を提案できる。【課題発見・分析・解決力】

- 自らすすんで自分の考えを伝える機会をつくり、様々なテクニック、機器を用いてプレゼンテーションを行うことができる。【プレゼンテーション力】

■ 関心・意欲・態度

- 生涯にわたり、地域における社会活動に積極的に取り組むことができる。【実践力 (チャレンジ力) 1】

- 何事もやってみなければわからないと挑戦する姿勢を持ち、自ら設定した計画は最後まで粘り強くやり遂げることができる。【実践力 (チャレンジ力) 2】

- 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】

- 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】

- 社会人として常識をわきまえて主体的に行動することができる。【市民としての社会的責任・倫理観】

- 地域における諸問題に対して、生涯にわたり常に高い関心を持ち続けることができる。【生涯学習力】

- 地域社会の中で他者との豊かな関係を築くコミュニケーション力を身につけ、目標に向けて協力的に仕事を進めるチームワーク力とリーダーシップを発揮できる。【コミュニケーション力】

教育課程編成・実施方針

地域創生学群では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。

- 「基盤教育科目」から40単位以上、「専門基幹科目」と「専門科目」を合わせて84単位を修得する。

- 地域創生学群の理念・目的のもと、養成する人材像に対応した履修コースとして、地域マネジメントコース、地域福祉コース、地域ボランティア養成コースを設ける。「専門基幹科目」「専門科目」は、各履修コースの目的に対応して履修するものとし、個々が貢献すべき分野に関する専門性を高める。

- 履修形態として、1～7 限開講制とする「通常枠」と、主に昼間に仕事を持つ学生のために平日の夜間及び土曜日に割り振られた授業科目を中心に履修する「夜間特別枠」を設ける。「専門基幹科目」においては、履修形態の特性に配慮し、教育課程を編成・実施する。
 - 基盤教育科目

卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。幅広い教養と問題意識を培うために、「教養教育科目」「情報教育科目」「外国語教育科目」の中から合計で 40 単位以上を修得する。(詳細は別記)
 - 専門基幹科目

地域理解のあり方や地域の現状・課題について、総合的な把握・理解を目指す中核科目群とする。地域に関する理論・現場理解、生涯にわたる学習力を身につける講義科目、地域活動に不可欠な技能、課題発見・解決力、実践力、表現力、社会人としてのマナー、コミュニケーション力等を重点的に養う演習科目、実習科目を配置する。特に、実習科目は、履修コースの特性に応じた科目を 1～3 年次に配置し、実習で得た知見と、同時並行的に学習していく知識・理論とを演習の場で有機的に結合していくことを重視する。

各年次における学習目標は以下のとおりとする。

1 年次は、地域とは何か、地域創生とは何か、地域への働きかけの方法の基本を学習する。2 年次は、実習を通じた地域の実態把握から問題点を抽出し、実践活動につなげる。3 年次は、実践活動を通じて問題点を整理し、より広い視点から活動を見直す。4 年次は、これまでの学習の集大成として卒業論文・卒業実践報告を作成する。

「専門基幹科目」は、「専門科目」とあわせて合計 84 単位を修得する。その際、通常枠の学生は、必修科目の 36 単位分を含めて、合計が 84 単位となるように修得する。また、夜間特別枠の学生は、必修科目の 14 単位分を含めて、合計が 84 単位となるように修得する。
 - 専門科目

多面的な視野による状況判断によって、地域問題の本質を見抜き、問題解決策を考える力を身につけるため、個々が貢献すべき分野に関する発展的な理論や専門知識、技能を習得する科目群とする。各履修コースの目的を踏まえ、法学、政策科学、経済学、経営学、情報科学、会計学、社会福祉学、心理学、生涯スポーツ学等の分野の科目を配置する。また、各履修コースの重要科目は、必修科目として設定する。また、個々の進路に応じた専門性を付与するため、選択科目で修得する単位数は幅を持たせて設定する。

「専門科目」は、「専門基幹科目」とあわせて合計 84 単位を修得する。その際、地域マネジメントコースおよび地域ボランティア養成コースは、必修科目の 2 単位分を含めて、合計が 84 単位となるように修得する。また、地域福祉コースは、必修科目の 4 単位分を含めて、合計が 84 単位となるように修得する。
- 職業を有している等の事情によって、標準修業年限である 4 年を超えて、5 年または 6 年にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを認める長期履修制度を運用する。
- 「基盤教育科目」「専門基幹科目」「専門科目」において、社会福祉士国家試験受験資格、公認障がい者スポーツ資格を取得するために必要な科目を配置する。

入学者受入れ方針

地域創生学群では、次のような学生を求めています。

- 基礎学力と同時に総合的な人間力を持った学生
- 総合的な人間力の有無を重視するユニークな選抜方式に合格した社会の幅広い層の学生